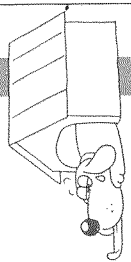


公害

かけようになりました
ありました。飼犬の泣
近所の人達が、良い法律
酒気で寝てあらノイロ！

所に言っても捕獲してく
知恵を!!



の頼末

月は子犬にと
夢であること
では処分とい
いて何も考え
ていない。
三カ月間はセ
ンターは親
犬の手をさ
る。
上の話が一月
経たないとい
う。引き取り
手がつかない
子犬は、大き
く育ち、非常
な反響をセン
ターを困
らせる。多く
の問い合わせ
が来ている。
「ビートル犬」
という情
緒が、読者
からなる拍車
ようである。
「保護」収容さ
れた子犬は、
不明な放浪犬
「雑種」とい
うのである。
殺している
「犬の子犬」
とよって大
きな雑種の
ニュースは、
ショーンをよ
び、通常の動
物としての面
面、あまりの注

目ぶりにはセンター側もや
や閉口味のようなものである。
もちろん、同センターに勤
務する人たちの胸奥に、一
度救った犬をやはりいつか
は何かの方法で処置しな
なくてはならない、という複
雑な心理があるのは確かだ
が……。
ところで、北九州市動物管
理センターは同市小倉北区
西港町二十四の七に、今年
一月十一日新築したばかり
である。そして、それを
契機に新しく大規模な企画
をおこなうことにしている。
それは三月から始められ、
毎月一回実施される「里親
デー」と名付けられたもの
で、飼えない子犬をセンタ
ーに持ってきてもらい、子
犬を欲しいという人にゆず
る媒介事業である。
センター内の「ふれあい広
場」で開催される。(年後三
カ月の子犬なら、新しく飼
い始めるのにも良い時期で
あろう。)大変に自費的な企
図として大いに評価したい
し、その成果を期待して見
守りたい。
「哀れな母犬」の情報を
もとにして、より大きな動
物愛護の事業計画を知り得
たのは、まことに幸運であ
った。だが、側面強力な影
響力を持つマスメディアに
対して、情だけに流されな
い、情だけに訴えない、冷
静で本質的な報道を願いた
い、どの思いもいだいた今
回の取材であった。むろん、
自戒の念も含めて。

「ペット公害一万件時代の到来？」

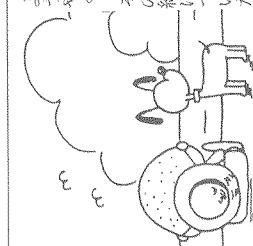
福岡県の現状

総理府の公害等調整委員会
を平成四年十二月十九日付
けでまとめた平成三年度の
調事が、翌日の十二月二十
日に公表された。調事によ
ると、平成三年度に全国の
自治体が受け付けた動物に
関する苦情は九千四百九件
におよび、これは調事中ワ
ーリスト四位の数字である。
しかも前年度を五十%も越
す急増ぶりであった。
だが、このいわゆる「ペッ
ト公害」が、一万件近くに
まで急増した原因のほとんど
はまだはっきりしていない。
その中で「ペット公害一万件
時代」の実態を、福岡の現
状から見つめてみることに
した。
まず、福岡県内のある保健
所に問い合わせたところ、
ペット(この報告では犬に
限定する)に関する苦情は
平成三年度が六千五百件(そ
のうちカミツキは十三件)、
翌平成四年度は横ばい状態
だったが、集計中の平成四
年年度になると急激に増え
てきているという。同保健所
職員によると「苦情の第一
は何といっても犬の放し飼
い」であり、苦情急増の原
因は「ペットブームと無責
任な飼い主のため」だと公
析する。
同保健所管内で登録され
ている犬は、年々増えて現
在はおおよそ二千匹だが、同
時に未登録犬も多く、常時
その対応に苦心している状
態だという。危険な犬の放
し飼いや、犬の未登録は、
確かに飼い主の無責任さの
ゆえであり、マナーの低下
に違いない。
しかし、県内数あるペット
ショップ「ワイルドペット
センター」の代表で、動物
研究もしている田川市の宮
下巖さんは「今は、犬の放

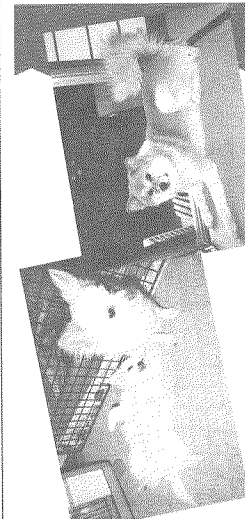
し飼いはほとんどない」と
話す。カミツキなどで告訴
されたりすると、あとの保
章が大変だからだ。
「昔と違い、飼い主のマナー
はほとんど良くなっている。
お年寄りの中には、実の孫
のように可愛がっているひ
ともいる。苦情が多くなっ
たのは、マナーの低下では
なく住宅事情の変化による
もの。今まで飼えていた犬
が飼えなくなり、放したり
逃がしたりして、その犬が
野犬化するためだ。保健所
に持って行くと殺されるの
で、それをかわいそうに思
って逃がすのでしょう」。
実際、宮下さんの店の前にも
、しばしば飼えなくなっ
た子犬や子猫を、夜中こっ
そり置いていく飼い主たち
がいるそうである。「だれ
か、良い餌を手を見つけて
くれると考えるのでしょ
う」と宮下さんは困惑した
表情で苦笑する。
宮下さんの説明を裏付ける
ように、福岡県田川保健所
食品獣疫係長菊池大蔵さん
は「平成三年度の犬につい
ての苦情件数は、所轄内で
千百六十四件うちカミツ
キは十九件」であったが、苦
情増加の原因をたんに、ペ

ットブームや飼い主のマ
ナー低下のせいだとはいえ
ない。むしろ道徳心に欠け
た飼い主もいるだろうが、そ
れより住宅事情や環境の変
化のほうが大きい。農村か
ら都市部へという人口の移
動もある。ペット自体増え
ていることは事実だが、そ
れが直接動物への苦情急増
の要因とは思えない。とら
え方の問題なのですよ」と
語る。
最後に、昭和四十八年十月
一日に公布された「動物の
保護及び管理に関する法
律」に基づいて、昭和五十
四年四月七日に定められた政
令市動物保護管理行政担当
機関「北九州市動物管理セ
ンター」にきいた。
同センターの職員ひとり
は「これからデーターを取
集、検討していくところな
ので、現段階でのコメント
はさしひかえたい」としな
がらも「感覚的にいえば、
近年の高度成長ゆとり、
ペットブームに、原因はあ
るのではないか。ただ、き
ちんと立派に犬を飼ってい
るひともしばしば、そうでな
い飼い主もいて、一概に道
徳心やマナーの低下とはい
いきれない」と話してくれ
た。また、最近のペットブ
ームの意味するものの説明
(せんめい)こそは、今後

の大きなテーマになってい
るという。
以上、福岡の現状に限って
いえば、地域によって見
解が異なっているものの一
つとやら「ペット公害」
の質的側面は、ペットの増
加以上に、人間の側の生活
環境、価値観の変化などに
起因するところが多いよ
うである。そこには、核家
族化や高齢化、希薄な近所
付き合い、密集する一方の
住宅といった、今日のわが
国のかかえる様々な問題が
浮かび上がってくる。
ペットと暮らしていく以上、
そうした事情を充分に考慮
して、正しい自覚のもと生
活していくことは、飼い主
側の責任であろう。とはい
え、すべてが飼い主の努力
で解決されるとは思えない。
ペットが住みにくい世の中
というものは、また人間に
とつても同じように暮らし
ていきにくい状況だといえ
るのではないかと。ともあれ
「ペット公害一万件時代」
の原因の究明と対策は、今
ようやく、その緒についた。



表紙モデル犬募集



マジックで修正したり、ハ
サミで切り抜いたりしてい
ない写真で、①犬の全身が
わかるスナップ②犬の顔の
アップ③飼い主と一緒に写
っているもの。以上3点の
カラー写真を同封し、連絡
先住所、氏名、電話番号、
犬の名前や年齢等を記入し
て、ご応募ください。封書
には必ず赤で「表紙モデル
係行」と明記して下さい。
また、参考までに、犬の体

高(地面から肩までの高
さ)、犬が車酔いしないか、
リードをはなしても大丈夫
か、シヨーマナーほか訓練
を受けたことがあるか等も
教えていただけると助かり
ます。
(でもあくまでもこれは参
考ですので、選考基準は同
よりも、犬らしい表情をし
てくれて、自然体で撮影に
のぞんでくれる、というこ
とです！)